歴史は未来の羅針盤

販売中ですので、ぜひともお買い求めください。教育委員会や各公民館などにおいて、一冊四、〇〇〇円で好評格編」、第二巻「日野商人編」、第八巻「史料編」となりました。古代編」、第二巻「中世編」、第五巻「文化財編」、第六巻「民古代編」、第二巻「日野商歴史』は、第一巻「自然・

の文化活動について紹介します。
の方の活動の様子をさまざまな視点からの活動の様子をさまざまな視点からの活動の様子をさまざまな視点からの対しています。

## 文化人との交流

日野商人は本業である商業のかた日野商人は本業である商業のかたわら、さまざまな文化活動も行っていたす。その内容は幅広く、文芸や絵画・能楽など、さまざまな分野にわたっています。商家によっては当主が自らていることもあります。ここではそのかを紹介します。

商人と文化人の交流として、中井 商人と文化人の交流として、中井 原左衛門家の例を見てみましょう。 源左衛門光昌は商人である一方、風 加店を持っていました。その子、二代 別左衛門光昌は商人である一方、風 源左衛門光昌は商人である一方、風 源を好み書画もたしなむ文人として 和を好み書画もたしなむ文人として の側面もありました。 画家や蘭学者 として著名な司馬江漢も光昌と交流

のあったひとりです。その司馬江漢は、のあったひとりです。その司馬江漢は、ています。この時光昌は不在でしたが、ています。この時光昌は不在でしたが、です。その様子が『江漢西遊日記』です。その様子が『江漢西遊日記』という旅日記に記されています。この時、江漢は持参した「のぞきめがね」など珍しいものを、良祐は家蔵の絵など珍しいものを、良祐は家蔵の絵などを互いに見せあっています。この滞在の機会と翌年にも、司馬江漢は、あって良祐の肖像画が二幅描かれていよって良祐の肖像画が二幅描かれています。

光昌は他にも松村呉春・谷文晁といった画家や、皆川淇園・佐藤寺宮といった画家や、皆川淇園・佐藤寺宮といいで、幅広い交流を持ち、彼らの活動ど、幅広い交流を持ち、彼らの活動に対し、経済的な支援を行うこともしばしばありました。このような交流から、新しい知識やものが日野にもから、新しい知識やものが日野にもから、新しい知識やものが日野にもから、新しい知識やものが日野にもから、新しい知識やものが日野にもから、新しい知識やものが日野にもから、新しい知識やものが日野にもから、新しい知識やものが日野にもから、新しい知識やものが日野に

商人と絵画

日野出身の画家で著名な人物とし

て、まず高田敬輔が挙げられます。 て、まず高田敬輔が挙げられます。 日野で活動した敬輔の弟の作品は日野町内にも数多く残されの作品は日野町内にも数多く残されの中にも商人がいました。そのひと子の中にも商人がいました。

の絵を得意としました。 雲圃は没骨法の画法をとりいれ、鮎醸造・販売を中心に営んだ商家です。 家は下野(栃木県)で酒・醤油の家は下野(栃木県)で酒・醤油の

## 日野と能

域でした。その背景には能楽師など日野は江戸時代から能が盛んな地

覧ください。

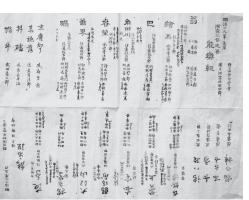
覧ください。

で見ることができます。

活目野商人館で見ることができます。

馬」「巴」などで、その番組を、近

馬」「巴」などで、その番組を、近



▲日野商人館に展示されている「能楽組」

\*名前等読みが定かでないものはふり